

ホットな
福祉情報誌

はあとふる ふくしま

2023
12月
No.323



特集

避難元・避難先の民児協と社協の連携が強化
避難者支援のいま

シリーズ 【未来へつなごう“ふくしま”から】

小さい頃から、リアルに体験、福祉の仕事
アウト オブ キッズニア イン

「Out of KidZania in ふくしま相双2023」レポート！

2023年度シリーズ ふくしまの未来

お天気の日には
元気いっぱい砂あそび♪
さて、何ができるかな～？
(相馬市・中村報徳保育園)



避難元・避難先の民児協と社協の連携が強化

避難者支援の いま

東日本大震災と原発事故から12年が過ぎました。しかし、避難先で新しい生活を送る人たちへの見守りや支援等が十分に届いているとは言えず、避難元・避難先の民生委員・児童委員（以下・民生委員）、社会福祉協議会（以下・社協）の連携強化が求められています。

去る10月27日には、いわき市において「令和5年度被災者・避難者支援にかかる避難元・先民生児童委員協議会並びに避難元・先社会福祉協議会合同情報交換会」が開かれ、双葉郡5町といわき市の民生児童委員協議会（以下・民児協）・社協、全国民生委員児童委員連合会地域福祉推進部会（以下・全民児連部会委員）などが一堂に会し、互いの近況、今後の課題が話し合われました。

今回は、避難元・避難先の民生委員、社協のそれぞれの視点から見てくる「避難者支援のいま」を見ていきます。

昨年の
郡山市に
引き続き
2回目の開催



「令和5年度被災者・避難者にかかる避難元・先民生児童委員協議会並びに避難元・先社会福祉協議会合同情報交換会」の様子。埼玉県、広島県、京都府、鹿児島県などの全民児連部会委員も加わり、活発な意見が交わされました。

避難元
民児協

避難元
社協

避難先
民児協

避難先
社協



避難者の情報を避難元・先の社協と民生委員が共有し、中長期的に見守っていくことが大事です。

■いわき市社協と 双葉郡5町社協の 連携協定がスタート！

被災者・避難者の支援には民生委員と社協の連携が不可欠です。その具体的な取り組みのひとつとして、「いわき市内配置避難者地域支援コーディネーター」一元化にかかる協定が今年4月に締結されました。これは県内で最も多く避難者を受け入れているいわき市社協と、檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町の5町社協が連携し、避難者一人ひとりが現住所で安心して暮らせるような環境づくりをめざすものです。

現在、避難者地域支援コーディネーター32人が県内21市町村に配置されており、見守り訪問、サロンなどで地域と避難者のつなぎ役を果たしています。いわき市においては、6市町社協の避難者地域支援コーディネーターを一元化し、連携して活動しています。さらに避難元・先の民児協、関係団体等と情報を共有



福島県民生児童委員協議会
いわき市民生児童委員協議会
会長
篠原 清美さん

することで、見守り支援を強化することが狙いです。

いわき市は現在、約1万7千人の避難者を受け入れており、その中の約2400人が復興公営住宅で生活を営んでいます。復興公営住宅は同じ市町村から避難している方がまとまって入居しているわけではないので、入居者同士のコミュニケーションが形成されづらい状況にあります。また、復興公営住宅の自治会役員も年1回のペースで変わることが多いため、自治会を主体としたコミュニケーション形成が難しい状況です。

震災から10年以上が経過し、避難者の高齢化も進んでいます。特に復興公営住宅において「一人暮らし高齢者の孤立化」が懸念されます。

■避難元・先の社協、 民生委員の垣根を越えて

「福島県における民生委員の訪問活動の最大の課題は住まいは避難先にあるが、住民票は移していないという状況にあります。これは震災の補償・賠償問題が現在も進行中であるため、すぐに解決できる問題ではありません。避難元の社協・民生

INTERVIEW

「個」と向き合って動ける 柔軟性とスピード感が 民生委員の強みです。

全国民生委員児童委員連合会
とくとう きんいち
会長 得能 金市さん



現在の福島県の民生委員活動は、本来支援を行うはずの避難元の行政区と、避難先の行政区が分かれてしまっているため、スムーズな支援を行うことができません。復興公営住宅に限って見れば、住民一人ひとりが孤立しているというより「団地そのものが孤立化している」特殊な状況に陥っているように見えます。

近年、個の価値観も変わり、支援内容も複雑化していますが、困っている人を助けるのが私たち民生委員の使命です。行政の公平感や画一性を重視した「面」の動きに対して、民生委員は「個」と向き合って動ける柔軟性とスピード感が強みです。行政の手が届かない隙間に私たちが入ることで、よりよい支援を行うことができるはず。全国に約24万人いる民生委員の心をひとつにして、この逆境をともに乗り越えましょう。

委員は自身も避難者であるため、土地勘のない中で訪問活動を行うことになり、また避難先の社協・民生委員は避難者の情報があかぬ、支援したくてもできないというもどかしさをお互い抱えています」と福島県民児協の篠原会長は話します。

こうした垣根を越えて避難元・先の社協、民生委員が情報を共有し、避難者を「定住者」として中長期的に見守っていく体制が大事な視点であると考えています。

事例紹介

富岡町

民生委員と社協の連携による 新しい取り組み

富岡町では、民生委員と町社協の生活支援相談員がペアとなって、避難先住民への同行訪問を行う活動を定期的に実施しています。富岡町民児協会長の寺島利文さんと富岡町社協事務局長の穴倉秀和さんに、震災以降これまでの民生委員と社協の連携について伺いました。



民生委員と社協職員の同行訪問の様子。民生委員は地域の身近な相談相手として、関係機関への「つなぎ役」を担っています。富岡町民児協では鮮やかな青色のビブスを着用して訪問しており、住民にもおなじみの存在。

■震災以降、 県内3拠点に分かれて 民生委員の活動を展開

「富岡町の民生委員は定数34名に
対して現在30名が活動しています。
その内訳は、富岡町内12名、いわき
市内14名、郡山市内4名です。東日
本大震災のときは民生委員も避難し
たため定例会は休止せざるを得ませ
んでした。その後、県内外に町民が
バラバラに避難する中、2ヶ月に1
回定例会を開催できるようになり、
平成29年4月1日に富岡町の避難指
示解除が出されたときに社協が町に
戻りました。それ以降は毎月定例会
を開催しています」と寺島会長。震
災前年（平成22年）12月に民生委員
の一斉改選が行われたため、当時は

そのほとんどが新任で以前からの民
生委員は2人だけという状況の中、
震災以降の民生委員活動はすべてが
手探りな状況だったといいます。

富岡町では現在、民生委員の活動
を富岡町・いわき市・郡山市の3拠
点に分かれて活動しています。町社
協の穴倉事務局長にお話を聞きました。
「社協が支所を設けて、民生委員
も地区部会で話し合うという緊急時
の対応が震災後から12年経った今も
変わっていない状況です。社協で
は、平成23年8月に県社協からの委
託を受け、避難者の支援にあたる生



富岡町社協事務局長
ししくら ひでかず
穴倉 秀和さん

富岡町民児協会長
てらしま としふみ
寺島 利文さん



活支援相談員を配置しました。当初は仮設住宅ごとに生活支援相談員を配置していたため、かなりの人数でしたが、現在は町社協を本部としていわき市に10名、郡山市に9名、富岡町に3名で計22名の生活支援相談員がその任にあたっています。

■ 民生委員・生活支援相談員による同行訪問の効果

こうした中、民生委員と生活支援相談員による同行訪問を震災以降スタート。同行訪問の効果について寺島会長は、「私たち民生委員は地元のことをよく知っていますし、相手が顔馴染みのときもあります。一方で、生

活支援相談員は土地勘のない避難先での道案内や、本来の担当地区の住民ではない方との顔つなぎができるので、「一緒に訪問すると安心してもらえるようです」と話します。

生活支援相談員は、避難者の世帯や生活の状況といった情報は持っているものの、単独での訪問の場合、相手が壁をつくってしまうケースもあるのだとか。こうしたとき、まず民生委員が相手の困りごとを伺い、それを生活支援相談員と共有することで、スピーディーな支援ができるというです。

同行訪問について穴倉事務局長は「民生委員さんは『町民の困りごとに対する支援』が目的、一方で生活支援相談員は『避難者支援』が目的です。その両輪が上手にかみ合った形が同行訪問だと思っています」と分析しています。見守り支援では避難者に目が行きがちですが、民生委員活動では、町に移住してきた人も支援の対象となります。こうした移住者の支援のため、社協と民生委員で情報を共有しながら一緒につながり作りをしています。

■ 避難先が定住地になったときの民生委員活動のこれから

「普段の民生委員活動や同行訪問などを通して住民の困りごとを専門機関につなぐことができたケースも増えていますが、避難者の住む地区が広域に及んでおり、限られた人員での訪問はどうしても高齢者が優先となってしまう。目の前のできる支援を精一杯やるしかないというのが実情です。民生委員のことを知らないという方もいますので、広報活動も必要です」と寺島会長。こうした中、富岡町民児協では町社協と連携



富岡町災害公営住宅（曲田第2団地）で開かれた民児協によるサロンの様子。当日は民生委員と団地住民による交流会が行われました。

し、ビブス（フリースリーブのウェア）やPRグッズとしてチラシやティッシュ、のぼり旗なども制作、会合やイベントなどで周知を図っています。現在、富岡町では社協のサロンに民生委員が入ることで町民の声を拾い上げるといった取り組みのほか、災害公営住宅では民児協主催によるサロンを開催するなど、住民に寄り添った支援を展開しています。

今後の避難者支援について穴倉事務局長は、「富岡町に住み票を残したまま町外で生活している方がもし災害に遭われた場合、避難先の地域で要援護者名簿に入れてもらえるのか、そういったことも避難先の社協・民生委員と話し合っておく必要がある」と今後を見据えています。寺島会長も「避難生活が長くなればなるほど避難先が定住地になります。私たちも住所を富岡から移せば民生委員ではなくなります。支援のあり方、連携の進め方など課題はありますが、避難者がどこに住んでいても、その人を孤立させないことが民生委員の使命。社協の皆さんと力を合わせて地域福祉を進めていきたい」と力強く話してくれました。



社会福祉法人南相馬福祉会 特別養護老人ホーム福寿園 小さい頃から、リアルに体験、福祉の仕事 「Out of KidZania in Fukushima」 インふくしま相双2023 レポート！



特別養護老人ホーム福寿園で開催された仕事体験の様子。①最初に介護職員の仕事について説明を受ける子どもたち。
②リフトを使って車いすの移動を介助。
③車いすからベッドへの移乗も介助。
④仕事体験を終えると、一人一人にインベ（お給料）が手渡されました。

「Out of KidZania」はさまざまな職業体験を直にできるのが魅力です。

福島県相双地方振興局 企画商工部
地域づくり商工労政課 主事
かわらだ 千皓さん
河原田 千皓さん



相双地域のさまざまな仕事を
現場で体験できる2日間

福島県が主催する「Out of KidZania in Fukushima」が、9月30日、10月1日に、福島県ポットテストフィールド（南相馬市）のほか相双地域の各事業所などで開催されました。福島県相双地方振興局の河原田さんは「地元企業の協力のもと、子どもたちが楽しめるイベントを実施してきましたが、昨年から職業・社会体験施設「ギッザニア」監修によるさまざまな仕事体験を行う形にリニューアルしました。地元のイベントを通した楽しい思い出が、将来の職業選択につながれば」と話します。その中から「介護職員の仕事」の会場となった南相馬市の特別養護老人ホーム福寿園（以下、福寿園）の様子をご紹介します。

子どもだけでなく保護者も
福祉の仕事を知るきっかけに

「おはようございます」と元気に来場する子どもたちと、にこやかに迎える福寿園のスタッフの皆さん。はじめに、菅原施設長から子ども

たちに「おじいさん、おばあさんになると、どんなことができるかな」と思いますか？という質問が出されました。

「耳が聞こえなくなる」「歩けなくなる」などと答える子どもたち。それに対して菅原施設長は「できなくなるが増えたお年寄りを敬うことが大切です。でも、何でもやってあげるのではなく、高齢者の『できないこと』を手伝い、『生きることを支える』のが介護の仕事」と話し、子どもたちは介護という仕事をやる上で大切な心構えを学びました。

この日体験した仕事は、「車いすの移動介助」「体調を記録するバイタルチェック※1」「車いすからベッドへの移乗※2介助」の3つ。どの仕事も、福寿園のスタッフが子どもたちに手本を見せ、ペアを組んだ子どもたちが介護をする人、介護を受ける人を交互に体験しました。

参加した子どもたちからは「車いすを押したり押してもらったりして、おじいさん、おばあさんの気持ちになれました」「介護はこれからも必要な仕事。実際にやってみて、将来働いてみたいと思いました」という感想を聞くことができました。保護者からは「福寿園の施設に入った

※1 脈拍・呼吸・血圧・体温などの測定を行うこと

※2 車いすから便座、浴槽から車いすなどに乗り移ること。



赤い羽根で ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111 (福島県総合社会福祉センター内)

電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234

メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

ホームページ https://akaihane-fukushima.or.jp/

令和5年度歳末たすけあい運動が 12月1日から始まりました!

「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに掲げ、今年度も共同募金運動の一環として12月1日から12月31日までの1ヶ月間、歳末たすけあい運動を実施しています。ボランティアや民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会などの関係機関・団体の協力を得て、新しい年を迎える時期に誰もが孤立することなく、安心して地域で暮らすことができるよう、多様な福祉活動が展開されます。皆さまからお寄せいただいた寄付金は、例えば一人暮らし高齢者の方へのおせち料理の配食等を通じた見守り、子ども食堂の運営、障がい者施設のクリスマス会などに役立てられます。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



過去に行われた活動の一例

一人暮らしのご高齢の方、高齢者世帯等を 対象としたクリスマスの宅配・見守り事業

(会津坂下町社会福祉協議会)

皆様からお寄せいただいた募金によりクリスマスギフトと一緒にクリスマスカードをお渡しすることができました。「毎年楽しみにしています。中身が少しずつ変わっていて食べるのがとても楽しみです。今年は賞味期限が大きく書かれていて見やすかったです。来年も楽しみにってます。」「一人だとクリスマスなんてやんね～からこういうの貰えるといいね。」など嬉しいお言葉をいただきました。ご協力ありがとうございました。



もらったイノベ(お給料)を使って
買い物を楽しむ子どもたちの姿も。



体験をサポート
してくれた特別
養護老人ホーム
福寿園のスタッ
フの皆さん。



(右から) 副施設長 阿部 雅志さん
施設長・所長 川久保 浩美さん
施設長 菅原 武さん
副主任介護職員 草野 琢哉さん

のは初めて。介護の仕事内容が分かり、貴重な体験になりました」「子どもたちにとって、今日の体験が将来の職業選択の一つになるといいです」など、介護の仕事に対して前向きな印象を持ったようでした。子どもたちの体験をサポートした阿部副施設長は「小さい頃から福祉に興味を持った人が、将来仕事に就くことが多いので、とてもいいイベントになりました。今は便利な機械や福祉用具のおかげで就業環境は改善しています。もし福祉の世界に興味を覚えたお子さんがい

「介護職員の仕事」を
体験できる貴重な
イベントでした。



たら、保護者の方は後押ししていただけたら」と話します。子どもだけでなく保護者も福祉の仕事を実感に感じられた「Out of KidZania in ふくしま相双 2023」。子どもたちの将来の職業として、福祉の仕事を考える貴重なイベントとなりました。

県社協からのお知らせ

令和5年度 第2回 福祉の職場WEB説明会 及び 合同就職説明会のご案内

福祉のしごとに興味がある方、まずはオンライン上でWEBサイトを！そして、直接会場にお越しください。お待ちしております！

WEB説明会

下記サイト上に、参加法人紹介ページを掲載します。施設情報、有効求人などをスマホ等で確認し、希望に合う法人を探してください！

期 間 令和6年1月22日(月)～3月17日(日)

参加法人 県内で社会福祉施設・事業所を運営している104法人(予定)

合同就職説明会

求人事業所と直接話ができる就職説明会を開催します。

また、全会場にて参加者限定で証明写真の撮影会もあります！(人数限定)

参加法人 WEB説明会に参加する法人(104法人予定ほか)

地 域	日 程	会 場	時 間
会津	令和6年2月4日(日)	会津アピオスペース	13:30 ～ 15:45
郡山	令和6年2月12日(月・祝)	ビッグパレットふくしま	
白河	令和6年3月2日(土)	白河市産業プラザ人材育成センター	
福島	令和6年3月10日(日)	ホテル福島グリーンパレス	
いわき	令和6年3月16日(土)	いわき産業創造館 LATOV	

求職者向けイベント

「ふくしのシゴトトーク」

施設の職員の方と話ができるイベントを開催します！求人票には書かれていないけれど、聞いてみたいことはありませんか？現場からの視点で、就職活動をさらに前進させましょう！

●福島会場

令和6年3月10日(日)

12:30～13:20

(受付開始／12:20～)

●郡山会場

令和6年2月12日(月・祝)

12:30～13:20

(受付開始／12:20～)

お問い合わせ先

福島県社会福祉協議会 人材研修課 福祉人材センター

電話 024-521-5662 URL <https://f-fjc.com>



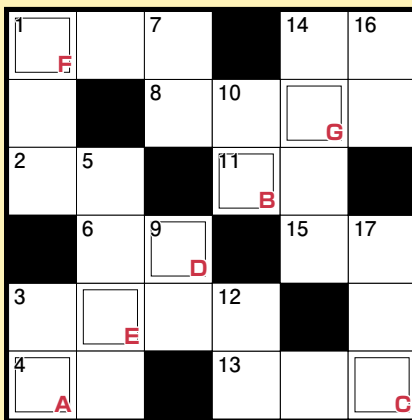
クロスワードにチャレンジ！

▶ヨコのカギ

- 自分や相手の駒を跳び越えて進める将棋の駒
- 日本刀を納める筒
- 電流のオン・オフをする装置。任天堂のゲーム機
- 天気記号は「」。ちなみに「」は、〇〇ばしら
- ⇄南
- 好機。シャッター〇〇〇〇、絶好の〇〇〇〇
- 健康的な食生活「まごわやさしい」の「ご」
- スキー場のコースの上まで乗って行きます
- 「雪の朝 二の字二の字の 〇〇のあと」
- 雨だれ〇をうがつ。他山の〇。〇の上にも3年

▼タテのカギ

- 機械や身体に異常が無いかわかること
- 廻っているお店でも良いから食べに行きたいなあ
- 甘くてホクホク、栗より美味しい13里
- 福島県には31あります。1番広いのは南会津
- 2024年の干支
- トンボの幼虫
- 南米にある細長～い国
- 精米する前のお米
- +
- 日本のコレは東京です



全部できたら二重ワクの7文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。



正解者の中から
抽選で3名に
プレゼントが当たる



今日のプレゼント

RIBBON COFFEE
(福島市)

地産地消の季節の
ドライフルーツ3点セット

当選者の発表は商品の発送を
もって代えさせていただきます。

応募方法 ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締切 令和6年1月15日(月)

宛先 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでの
ご応募は
こちら！



／ 多数のご応募ありがとうございました ／

11月号の
正解

「コクサイシユフ」(国際手話)

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

10月号に寄せられた読者のおたよりから

ヤングケアラーについて、お手伝いをしてエライというレベルではなく、その子の生活を蝕むような大変なことだと分かりました。気づくことで助けになればと思います。(67歳 主婦)

もっともっと就業支援をしている会社やお店、こども食堂とかの情報が知りたいです。SNSや広告等でもっと発信してほしいです。できたらイベント等もありがたいです！(53歳 事務)

毎号、様々なジャンルの福祉活動にスポットを当ててあり、とても参考になります。(63歳 社会福祉)

編集後記

全国の民生委員さんとお話した際「福島はいい所だね」と仰っていただきました。今回は民児協と社協の連携に焦点を当て、3名の民生委員さんに取材しましたが「社協と協力しながら」といった言葉を多く伺いました。これからも民生委員と社協は両輪となって活動を推進していきます。

あまのりひと
(地域福祉課 青山矩仁)